

教育プログラム・コースの概要

大学名等	慶應義塾大学大学院医学研究科						
教育プログラム・コース名	リハビリ専門医養成コース（正規課程）						
対象職種・分野	博士課程大学院生・腫瘍リハビリテーション医学						
修業年限（期間）	4年						
養成すべき人材像	<ul style="list-style-type: none"> ・がんリハビリテーションに関して、ライフステージごとに異なる知識・スキル、病期（予防・回復・維持・緩和）に応じた実践方法を習得し、がん患者特有に生じる各種機能障害を予防、治療するためのリハビリを行えるリハビリテーション科専門医を養成する。 ・がんチーム医療の中でリハビリを実践する臨床能力を身につけるとともに、臨床研究者として腫瘍リハビリテーションに関する臨床研究を実践している能力を極めて、国際的に活躍し指導的役割を担うリーダーを育成する。 						
修了要件・履修方法	医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下の【履修科目等】に記載のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。						
履修科目等	<p>医療科学系専攻の主科目21単位以上に加え、以下のすべての科目を副科目として履修し、単位を修得すること。履修内容審査および学位審査に合格すること。</p> <p><医療科学系専攻主科目> 生命倫理学(1単位)、臨床疫学または基礎疫学(2単位)、医学統計学または基礎生物統計学Ⅰ・Ⅱ(2単位)、所属分野科目(特論・演習・実習)(計16単位)</p> <p><副科目> 基礎腫瘍学(2単位)、先端ゲノム医学(1単位)、緩和医療学(2単位)、臨床腫瘍学(2単位)、化学療法学(2単位)、臨床研究方法論(1単位)</p>						
がんに関する専門資格との連携	リハビリテーション科専門医（日本リハビリテーション医学会）の研修施設として認定。「がん患者リハビリテーション料」、「リンパ浮腫複合的治療料」の算定要件を満たす施設として認定。						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年12月に改定された、がん対策基本法では、第17条に、「がん患者の状況に応じた良質なリハビリテーションの提供が確保されるようにすること」が追加され、国や地方公共団体においても、がんリハビリテーションに関する施策を推進する方針となった。しかしながら、我が国においては、がん専門医療機関においてすら、がんリハビリテーションが十分実施されているとはいえない。 ・がんのリハビリに関する博士課程は全国で本学以外には皆無である。 ・がんリハビリを専門とする医師が担当教官として直接指導を行う。 ・臨床能力だけでなく、研究者の育成に力を注ぎ、がんリハビリ分野のリーダーを育成を目指すことが大きな特徴である。 ・がんサバイバーシップケアとしてのリハビリテーションの取り組みを含めた体系的な教育プログラム・コースが構築されており、がん患者のライフステージや病期別に、がんサバイバーシップケアとしての、がんリハビリテーションの診療と臨床研究を体系的に学べる。 						
指導体制	リハビリテーション診療は、治療と仕事の両立支援、介護予防、終末期の療養生活の維持・向上の観点からも、重要な役割を担う。がんリハビリテーションのエキスパートである指導教授・担当教官がマンツーマンで各地域でリーダーとなるリハビリテーション科専門医の養成を行う。						
修了者の進路・キャリアパス	・各地域のがん専門医療機関へ就職し、がんリハビリテーションを実践する指導者となる。大学等のアカデミアへ就職し、がんリハビリテーション診療や研究・教育に従事する指導者となる。						
受入開始時期	令和6年4月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	1	0	1	0	1	3
受入目標人数設定の考え方・根拠	過去の大学院志願者数及び入学ニーズ調査から毎年度0.5人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を0～1人と設定。						